



事務局

安心できる地域ケアを考える会

〒675-0019 加古川市野口町水足 1874-1

TEL (079) 421-7417 FAX (079) 422-8630

<http://www12.plala.or.jp/anshinchiki/>

E-mail: anshin-care@maia.eonet.ne.jp

介護者がいなくても在宅 で暮らし続けられる!?



1. 「ターミナル・ケア ～本人・家族・支援者の思い～」について

今回は、ケアマネジャーの方からの事例について意見交換しました。

80歳半ばの末期がんの女性。現在は入院中ですが、離れて住む娘さんは、お母さんが元気な頃に望んでいたこととして、自宅で最期を迎えさせてあげたいと思っています。

ところが、女性は一人では起き上がることもできず、夫は認知症であるため、帰っても介護ができる家族がいません。ケアマネジャーは、介護保険サービスを利用し、1日2回のホームヘルパーと訪問看護の利用を提案しましたが、娘さんが望む「24時間母の傍に寄り添ってほしい」という要望を叶えることはできません。

支援者として最良のケアを提供しなければならないという強い思いがありますが、一方で家族の協力を得ず、どこまで自宅でターミナル・ケアができるか不安、との事でした。

それについて参加者から①退院させるべき②退院させるべきではない③どちらともいえないの意見に分かれました。

① 退院させるべき

- ・ 家族の希望なのだから、家政婦を雇うなど自費サービスを使ってでも退院させてあげればよいのではないか
- ・ ひとり暮らしでも介護保険でターミナル・ケアをしているケースはある。何とかなるものだ。
- ・ 看取りは、自宅や施設といった場所を問わず、誰かが傍にいても死の瞬間に立ち会える事は難しい。常に誰かが付き添うことにこだわらず、希望する自宅で最期を迎えられればそれで良いのではないか。
- ・ 死とは、生活の中の1通過点に過ぎず、それから先はまたその世界がある。そう考えるのであれば、死は特別なことではない。生活の中で最期を迎えることが重要。
- ・ できる事はできるし、できない事はできないと割り切って、家族や本人の要望を聞いてあげればよい。要望も実際に生活していくうえで変わってくるので、そのつど対応すればよい。

② 退院させるべきではない

- ・ 費用面など現実的なことを考えると、退院させるべきではない。無理なことは無理とはっきり娘さんに説明し、納得させるべき。
- ・ キーパーソンである娘さんが、介護の手伝いができないのであれば無理。
- ・ 病院側の立場で言うと、現状では退院させられない。

③ どちらともいえない

- ・ 娘さんにどこまでの覚悟があるか事前に確認して、判断するべきだ。
- ・ 同居の夫の希望も聞くべきだ。 など

次回の定例会
7月23日(火)
19:00~21:00
場所:リバティ2階

事例提供者はこれらの意見を受けて、はじめは退院させることをあきらめてもらおうと考えていたが、主役は本人と家族であり、その希望を第一に考えなければいけない、現実的なことばかりに気をとられ、一番大事なことを忘れていた、と言われました。

続いて、この事例のようなターミナル・ケアに関わるケアマネジャーなどの専門職に対するケアについても話し合いました。

ターミナル・ケアは、本人や家族のケアは議論されることはあっても、今回のように家族の願いと現実の間で葛藤しているケアマネジャーに対するケアについては、議論されることが少ないと言われることがあります。

専門職の中には、自分の経験で物事を進める傾向がある人がいますが、人生は一人ひとり違います。今回のようなケースを相談した場合に、過去に似た経験をしたことがあるという理由だけで「こうしたらいい」と言われてしまうと、相談したほうはしんどい、との意見が出され、ターミナル・ケアは「こうあるべきだ」と納得して提供しているのか、それとも「これで本当にいいのか」と葛藤しながらケアしているのか、との問いがありました。

それに対して、このような仕事に携わっていると、葛藤はいつも頭の片隅にあり、負担は大きいといった意見があり、人はよく他と比較をしまいがちであるが、その人はその人と切り替えることも専門職の役割であるとの意見がありました。

また、経験はとても大切で、経験を積み重ねていくことが人生観となり、色んな家族や利用者に関わりながら、最良のプランを立てていけるのではないかという意見もありました。

ほかには、緩和ケア病棟などの仕事は、やりがいを感じて希望する人もいるが、辞めていく人も多く、入れ替えが激しいという報告もありました。仕事と生活の切り替えが難しく、専門職へのケアが充実しているとは言えないという現状が浮かび上がりました。

私とぶくし

「出会いを大切に・・・」

加古川さくら園
ケアマネジャー 神田 真里さん



私が福祉に興味を持ったのは高校卒業の頃で新卒当時は保育士で勤務していました。自宅には高齢の祖父（寝たきり）がいて主に祖母や父、母が関わっていましたが、私が休日の日は入浴介助をしたり話し相手になったりしていました。当時は地域にいろいろなサービスがあるわけでもなく「措置制度」の時代で利用者がサービスを選んで決めることは困難でした。制度についての詳しい説明があるわけでもなく、また、世間体や周囲の目も厳しい時代だったと思います。母が忙しい時間を割いて（自宅が自営業だったもので）何度も行政機関に走っていた記憶があります。今は介護保険制度に変わり「措置から契約」に変わっています。現在私は、特養で相談員を4年間、この春から居宅でケアマネジャーをしています。高齢者福祉に関わったのは「契約」になってからです。「時代は変わったな・・・」と感じながらも日々お出会いする利用者さまや家族さまに少しでも満足頂けるよう努力を重ねています。

～福祉職のつどう会～



☆日時：8月9日(金) 18:00～
☆場所：ヤマトヤシキ加古川店
ビアガーデン ※雨天中止

☆会費：男性 3200円 女性 2800円
(当日各自でお支払いください)
※途中参加も大歓迎です。
★参加される方は事業所でまとめて、
7月31日までにFAXしてください。